

事業概要シート

施策 2003 ごみの減量化と適正処理の推進 <<>の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計
 ※ 補正予算要求時は今回の補正予算額を除く。
 ※ 次年度予算要求時は次年度繰越額を除く。

事業名	廃棄物リユース事業（ごみ活用事業）	新規	予算額	88 千円
事業期間	令和2年 ~	財源内訳	<< >>千円	
根拠法令要綱等			国庫支出金	千円
			県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	千円
			一般財源	88 千円

【事業の目的・概要・対象】

みんなで育てる資源循環の「ミライ」のまちづくりを目標に、ごみの減量化、リサイクル率の向上を目的として廃棄物をリユース（再利用）し、障がい者に対するの理解及び社会参加促進のため、環境センターに持ち込まれたまだ使えそうな廃棄物を、市内の障害者就労施設に無償譲渡し、施設で修理清掃して販売する。

廃棄物リユース事業は、長崎県内でも初めての取り組みであり、市民・障害者就労施設・市が手を取り資源循環の気持ちを育て、人・環境にやさしいまちづくりをめざす。

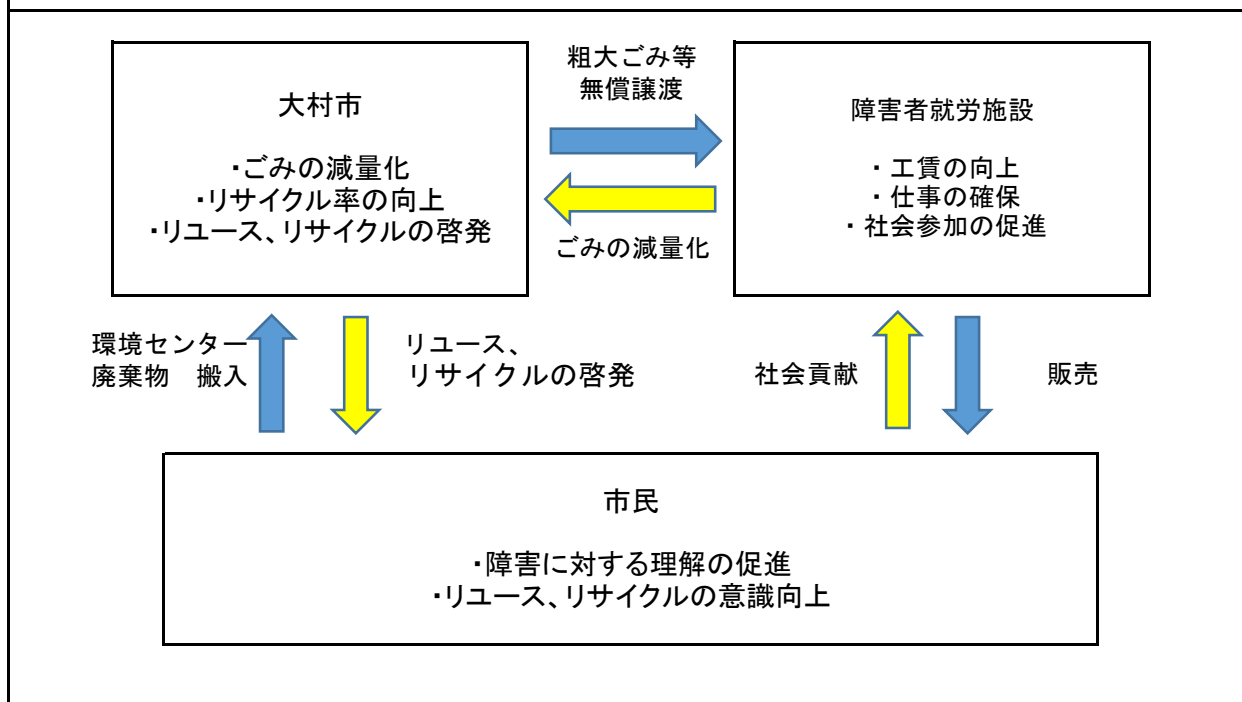
障害者就労施設と連携することにより、施設としては仕事の確保・工賃の向上、障害者の社会参加促進が図られる。大村市としても、売払いに対する人件費・作業スペースの確保が必要なくなる。

廃棄物が毎月安定的な供給が不確定なため、モデル事業所をプロポーザル方式で一社選定し、3～5年事業を試行的に行い、市民の認知度が高まり、事業が軌道に乗った時点で事業所を増やす予定。

対象廃棄物は、主にタンスや机、テーブル・イスやソファなどの粗大ごみ及び釣り竿やリール、傘などの処理困難物及び陶器類。金属類など資源物として売払っているものは基本対象外とする。

年に一度のもったいない抽選会には、人気の自転車や扇風機などの小型家電を中心に展覧するため、ごみ活事業に関しては、リユース（再利用）等の意識向上と障害者施設での購入等の社会貢献が見てわかるように、ごみ活のシンボルマーク等を作成しブランド化したい。

シンボルマーク等に関しては、まだ協議はしていないが地元の高校等にお願いするようになりたい。



【背景】

人口及び事業所の増加に伴いごみ排出量は増加している。平成30年度からごみの焼却時間を1日16時から24時間連続運転とし焼却時間を延長した。平成29年度から許容開始の最終最終処分場も15年埋め立て可能とさせているが、焼却灰や不燃残渣の量が予想以上に増加しているため、このままの状態が続くと埋立終了は早まる恐れがある。

以上の理由により、ごみの減量化とリサイクル・リユースが早急な課題である。

担当課	環境センター	課長	荒木良也
担当者	本川健二	問合せ先	0957-54-3100

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	H30 (実績)	R1 (計画)	R2 (計画)	R3 (計画)	R4 (計画)
①	就労施設	計画値 施設		0	1	1	1
②	引き渡し回数	計画値 回		0	48	48	48

【成果指標】

指標名		単位	H30 (実績)	R1 (計画)	R2 (計画)	R3 (計画)	R4 (計画)
①	排出量	計画値 t	0	0	16.8	16.8	16.8
②		計画値					

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	合計
事業費	0	0	0	88	0	0	88
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	88	0	0	88
人件費		0	7,272	7,272	7,272	7,272	29,088
職員(人)	0.00人	0.00人	1.00人	1.00人	1.00人	1.00人	4.00人
時間外勤務(h)	0h	0h	0h	0h	0h	0h	0h
嘱託員(人)	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
フルコスト	0	0	7,272	7,360	7,272	7,272	29,176

妥当性 (市の関与)	リユース(再利用)できそうな廃棄物を選定し無償譲渡する。
有効性 (施策貢献度)	ごみの減量化とリサイクル率の向上につながる。
効率性 (コスト)	初年度のみ、市民へのリユース(再利用)の啓発等の周知のためチラシを作成及びマークの商標登録申請料。

1次評価	担当者記載のとおり
2次評価	1次評価のとおり